

令和2年度周南市こども育成支援対策審議会(第6期第1回)会議録

日 時	令和2年10月28日(水) 14時00分～15時20分
場 所	周南市本庁舎1階 多目的室
議 事	1. 「第2期周南市子ども・子育て支援事業計画」の概要について 2. 子ども・子育て支援に係る今後の取組みについて(各課から) 3. 子ども関連施設について(報告)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員12名 ※全員出席 会議成立 井上会長、竹下委員、木村委員、田中委員、秋重委員、兼重委員 多田尾委員、原委員、今岡委員、加村委員、小林委員、山本委員 ● 事務局14名 こども・福祉部：仲西部長、穴田次長 次世代政策課：十楽課長、金近課長補佐、松村係長、山本主査 こども支援課：徳田課長補佐、有福課長補佐、福岡係長、久行係長 あんしん子育て室：柿並室長補佐、宮崎係長 学校教育課：魚谷課長 生涯学習課：川上課長

議事1. 「第2期周南市子ども・子育て支援事業計画」の概要について	
資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「第2期周南市子ども・子育て支援事業計画」概要版 ・ 資料1 第1期周南市子ども・子育て支援事業計画の達成状況の点検・評価及び事業別目標指標の実績報告 	
(1) 「第2期周南市子ども・子育て支援事業計画」の概要について	
□事務局	「第2期周南市子ども・子育て支援事業計画」概要版に基づき説明
○委員	少子高齢化が進むと、高齢者も育児に関係してくると思うが、そのあたりはいかがか。
□事務局	<p>国も地域共生社会として、子どもから高齢者までが、それぞれ助け合う環境づくりを進めている。</p> <p>子どもの施策においても、地域の活動の中で高齢者との交流をつくったり、活動の担い手となってもらうなど、世代を越えたお付き合い、支えあい関係ができるよう進めていきたい。</p>

○委員	<p>少子高齢化が進む中、働く女性が増え、ひとり親家庭も増えてくる。今後、高齢者の育児参加に対する支援も考えていく必要がある。</p>
◎会長	<p>「周南市子どもの生活に関する実態調査」の結果について、「27%の世帯が生活に何かしらの困難を抱えている状態」との記載がある。</p> <p>27%の受け止め方にもよるし、課題の内容も様々だと思うが、この27%の世帯に対し、我々は何をどう取り組むべきなのか。市から説明があれば聞きたい。</p>
事務局	<p>調査においては、「低所得」、「家計の逼迫」、「子どもの体験や所有物の欠如」の3つの項目の内、1つでも該当すれば、何かしら困難がある家庭と判断している。</p> <p>経済面だけでなく、子どもの体験面でも課題があることが分かり、様々な観点からのアプローチが必要と考えられる。</p>
◎会長	<p>社会福祉協議会から委員が来られているが、家計相談は増えているか。</p>
○委員	<p>コロナウイルスもあり、相談数は例年に比べて随分増えており、その中で、子育て世帯の方の相談も増えている。</p> <p>実際に関わっているのは2名だが、コロナの影響で収入がなくなった方も増えており、社会的影響により困窮に陥ってしまう世帯がたくさんあると分かった。</p> <p>27%の中には、もともと収入が少ないといった経済面の課題を抱える家庭もあれば、たくさん子どもを抱えている家庭もあり、いろいろな課題があると感じている。市の相談の部署とも連携しながら、支援の方法を考えているのが現状である。</p>
○委員	<p>まちぐるみで応援ということだが、その中に企業も入っている。その企業に、市役所の方からはどのような働きかけをするのか。</p>
□事務局	<p>子育てについての理解やワークライフバランスの推進として、商工振興の関係部署と連携し、イクボスの取組みを進めている。子育てに理解のある上司、経営者になっていただきたい、という取組みになる。</p> <p>また、保育園関係では企業内保育所を作りたいという相談を受けるなど、さまざまな形で連携を進めている。</p>
○委員	<p>市職員の育休の取得状況はどうか。</p>

□事務局	<p>男性の取得例は今まで2件。1年取得が1名と短期取得が1名。なかなか取得は進んでいないが、希望があれば取得できる環境は整えている。</p> <p>企業に対しても、男性の育児休暇について関心を持っていただくよう、イクボスの取組みの中で働きかけている。</p>
○委員	市が率先して取り組む考えはあるか。
□事務局	<p>家庭の状況や夫婦間の収入の多寡の問題もあり、男性が率先してという状況にまでは至っていない。ただ、家庭内でしっかりと話し合ってもらい、取得するとなれば市として取得できる環境を整えている。取得の方法も、短期で取得したり、女性がいったん取得し、男性が後から取得するという方法もあるので、柔軟に対応していきたい。</p>
○委員	<p>企業が毎年地区の子ども会に対し、支援金を支給されている事例があると聞いたが、市は把握されているか。</p> <p>非常にありがたい取組みであり、市にも把握していただきたい。</p>
□事務局	<p>子ども会に限らず、地域の企業がその地域の様々な活動に貢献されていることは聞いているが、子ども会に対してという具体的なことまでは把握できていない。</p>
○委員	<p>新聞に5月から7月期の出生数が出ており、山口県は29.7%減と、全国で飛びぬけて少なかった。</p> <p>コロナの影響で、母子手帳をもらいに行くのが遅れたケースもあると思うが、周南市の状況はどうか。</p>
□事務局	<p>今年度上半期の妊娠届出状況については467件で、昨年の同時期と大きくは変わっていない。ただ、年々、件数は減ってきており、減少傾向であることは変わりない。</p>
○委員	なにか具体的な施策はあるか。
□事務局	<p>子どもが欲しいと望む方が、妊娠、出産、子育てができるよう支援することが必要と考えている。</p> <p>不妊で悩む夫婦や不育症の方に対する治療費の一部助成を続けてきており、今年度からは所得制限をなくした。</p> <p>また、がん治療をされた場合に治療内容によっては生殖機能に影響を及ぼすことがある。そういった治療を受診した後に妊娠を望まれる若い世代の方に、生殖機能の温存に必要な治療費を助成する取組みも今年度から始めている。</p>

○委員	<p>昨今、国においても児童虐待に対する取組みをどうしていくかが喫緊の課題だと思う。</p> <p>特に虐待については予防が重要と考える。柱の一つに「児童虐待防止対策の充実」と掲げられているが、周南市で力を入れていることや方針があれば教えてほしい。</p>
□事務局	<p>予防という観点もあり、今年度から組織体制を見直した。</p> <p>あんしん子育て室を新設し、母子保健担当と、児童福祉や虐待を対応していたこども家庭相談室が一つの課になり連携をより深めている。</p> <p>母子保健では、全戸訪問事業を行っており、妊娠中から就学前のフォローをしている。その情報と連携を深めることで、虐待に至った案件だけでなく、虐待の恐れがある家庭も含めて対応していける組織体制とした。</p>
○委員	<p>連携や積極的なハイリスク家庭の発見に努めていることがわかった。コロナ禍の中で育児不安が虐待の要因に挙がっているが、コロナで制限され相談自体をしづらいという家庭も見受けられる。5年間の事業計画ではあるが、コロナの影響による見直しや強化などの方向転換も必要ではないかと感じた。</p>
<p>議事 2. 子ども・子育て支援に係る今後の取組みについて（各課から）</p>	
<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「第 2 期周南市子ども・子育て支援事業計画」 概要版 ・ 資料 1 第 1 期周南市子ども・子育て支援事業計画の達成状況の点検・評価及び事業別目標指標の実績報告 ・ 資料 2 組織紹介 こども・福祉部 	
◎会長	<p>議題 2 「子ども・子育て支援に係る今後の取組み」について、こども支援課、あんしん子育て室、次世代政策課、生涯学習課、学校教育課の順に説明をお願いしたい。</p>
□事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度から組織の改編の説明（資料 2 に基づく説明） ・ 子ども・子育て支援に係る今後の取組みについて、各課がそれぞれの事業概要について説明。 <p>こども支援課</p> <p>○基本目標 1 「子ども・子育て支援の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「教育保育の提供体制の充実」について <p>教育・保育の受け皿の確保実績</p>

幼保小連携アドバイザーの配置

- 「地域子ども・子育て支援事業の充実」について
 - 子育て支援センター事業
 - 病児保育事業
 - 放課後児童クラブ事業

○基本目標4「特別な配慮を必要とする子どもや家庭への支援の充実」

- こども医療費の助成について
- 児童手当、児童扶養手当制度の実施について

あんしん子育て室

○基本目標1「子ども・子育て支援の充実」

- 「地域子ども・子育て支援事業の充実」について
 - 利用者支援事業
 - 妊婦健康診査
 - 乳幼児全戸訪問事業
 - 養育支援訪問事業
 - 子育て短期支援事業

次世代政策課

○基本目標4

- 「特別な配慮を必要とするこどもや家庭への支援」
 - 子どもの明るい未来サポート事業等の推進
 - 困難を抱える子育て家庭の支援（子どもの貧困対策推進計画）に関する取組みについて

○その他（施設・再編担当について）

- 公立保育所、幼稚園、認定こども園等の再編整備について
- 子ども・子育て支援事業計画、施設分類別計画について

生涯学習課

○基本目標3「子どもの生き抜く力を育む教育の充実」

- 「学校・家庭・地域が連携した教育の充実」について
 - 放課後子供教室
 - 家庭教育支援チームの取組み

	<p>学校教育課</p> <p>○基本目標3 「子どもの生き抜く力を育む教育の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校・家庭・地域が連携した教育の充実」について やまぐち型地域連携教育の推進 ・「教育環境の充実」について ギガスクール構想の加速化、ICT教育の環境整備
○委員	<p>支援体制が充実していることは大変よいが、さらに、市外、県外の方に支援内容や本市の特色をPRすることが出来るとよい。コロナの影響もあり、東京から地方に移住を考える人が増えている。子育て環境の充実は移住者を呼び込む上で重要な要素であり、それらの人を温かく迎え入れる方策を考えてほしい。</p>
○委員	<p>一時預かりについて、育児軽減のため子どもから離れたたいという方のニーズが高まっているが、どの園も保育士不足で、受け入れが難しいと聞く。一時預かりの事業について、周南市内ではどのくらい枠があるのか知りたい。</p> <p>また、発達が気になるお子さんについても、医療機関が1か月待ち、3か月待ちなど、なかなか行けないという状況がある。医療機関も充実し、紹介できるようになるとよい。</p>
○委員	<p>学校で、子ども達の使用する端末がスピード感をもって整備されているのは非常によいことだが、各家庭の環境が追い付いていけるのか不安に感じる。その辺りのサポートはどうか。</p>
□事務局	<p>端末の導入にあたって、貸付の条件を精査している。市として補償できる範囲、家庭で責任を持ってもらう範囲を整理し、また保険の紹介なども含め、今後お示ししていきたい。</p>
◎会長	<p>質疑の有無について → 委員「質疑なし」</p>
<p>議事3. 子ども関連施設について</p>	
<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料3 福川南幼稚園の今後の方向性について ・ 資料4 周南市立周央保育園の移転・民営化計画の変更 	
□事務局	<p>公立の幼稚園及び保育所に関する取組について報告</p> <p>○福川南幼稚園の廃園について、資料3に基づき説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園児数の減少により、適切な集団規模での幼児教育が困難と

	<p>なったことによる廃園（令和3年度は1名になる見込み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣に民間の施設が複数あること、幼児教育の無償化により、幼稚園は満3歳での入園希望が増えている等が原因 ・今後は、令和3年度の入園募集は行わず、在園児の1名は他施設への転園を調整している。 <p>○周央保育園の移転・民営化計画の変更について、資料4に基づき説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年策定の公立保育所の再編整備方針の中でプラン③に位置付けた取組み。 ・当初の方針は、候補地を旧周栄幼稚園跡地だったが、民有地の活用も含め新たな候補地の検討を進めてきた。 ・平成31年3月に社会福祉法人薫風会から、周陽2丁目を候補地とした民営化の提案をいただいた。 ・立地条件もよく、事業者は民営化の実績のある法人であることから、提案を採用することとした。 ・今後は、令和4年4月からの開設に向け、保護者や周陽地区住民への説明を行い、民営化に取り組んでいく。
◎会長	質疑の有無について → 委員「質疑なし」